

鶴見大学における喫煙の実態および愛情卒煙への取り組み

鶴見大学歯学部生物学教室 阿部 道生・佐々木 史江 鶴見大学歯学部内科学教室 宮武 佳子

鶴見大学歯学部口腔外科学教室 堀江 彰久・瀬戸 暎一

大学内の喫煙実態を把握するため、鶴見大学および鶴見大学短期大学部の全学生(2,708名)、全教職員(696名)を対象としたアンケート調査を実施した。平成18年度学生の平均喫煙率は16.2%であり、教職員は21.3%であった。学部・所属別で比較すると、歯学部学生が25.1%で最も高く、文学部17.1%、短期大学部9.5%である。また、教職員は歯学部が23.5%、付属病院が24.0%と、他学部と比較して高い値を示した(図1)。

新入生の喫煙率は年々低下する傾向があるが、過去4年間の追跡調査の結果では学年が上がるにつれて喫煙率の上昇がみられた。これは在学中に喫煙習慣を身に着けてしまうためである。喫煙率の高い歯学部学生では、臨床教育の中で医療従事者として自覚しなくてはならないため、積極的な禁煙・卒煙カリキュラムの必要性が高い。また、医療職教職員の喫煙率が高い点は、学生への禁煙教育や患者さんへの卒煙指導者としての立場からも今後各員の自覚を強く促していく必要があり、学生・教職員全体での対応が肝要である。

日本学術会議の「禁煙社会の実現分科会」では、ガムたばこによる健康被害を視野に収めたことにより「禁煙」という表現を「脱たばこ」に切り替えた。脱たばこ推進のターゲットは青少年に的を絞って、特に医療に関わる医学部・歯学部・看護学部の学生の卒業までに『脱たばこ』を実現させる必要がある。

医学部・歯学部を中心とした愛情卒煙を全国的に推進させることが、最優先のタスクであると考え、本学では18年度より全学組織であるプロジェクト「鶴

見大学愛情煙会議」を発足させた。これは、教職員、学生を含んだ包括的組織であり、喫煙率0%の「脱たばこ」キャンパスを目標としている(図2)。さらに、内科の卒煙外来や保健センターとの連携による取り組みによって、全学脱たばこ化の早期実現を目指しているところである。

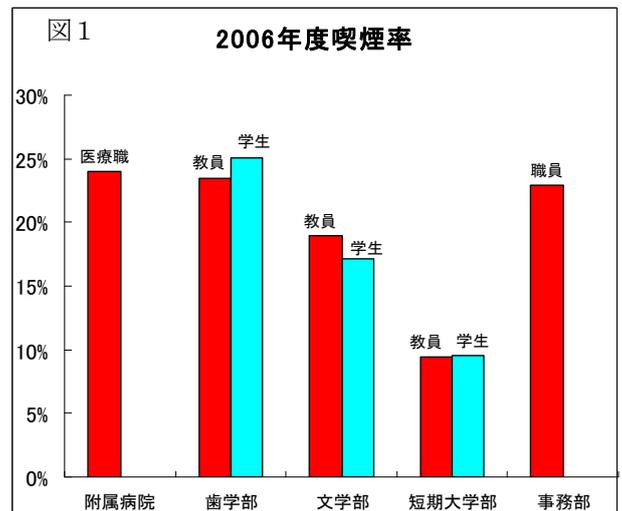


図2 鶴見大学愛情卒煙会議構成図

